

[003]障害史研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4772321>

出版情報：障害史研究. 3, 2022-03-25. Faculty of Social and Cultural Studies, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

編集後記

『障害史研究』第3号をお届けします。COVID19の疫禍で十分な調査活動ができないことは、本誌「活動報告」に載せる「活動記録」の「調査」欄に示されています。「学会報告」「研究会報告」「講演」の各欄もオンラインのまさにオンパレードです。当科研の研究会もその例外ではありません。しかし、病と人との関係は当科研のテーマの一つであり、学会シンポや講演・講座などで話す機会を持ったメンバーが多いのも「活動記録」から同様に窺えます。いわば当事者性をもってテーマに取り組む機会、このように捉え返すこともできるでしょう。

その意味で、本号には、近世日本の障害研究を、自らが障害を持つ当事者として取り組み、障害の歴史研究に大きな足跡を残した、生瀬克己を対象とする論考2編を載せることができました。これらの論考が指摘するように、現代からみれば、研究視角や対象（史料）は、障害者ゆえの強い自意識のためなのか、限定性や偏在性も指摘できるでしょうが、障害史研究、また広く歴史研究にとって裨益する共有財産であることには変わりはありません。生瀬の成果を位置づける仕事は、今後、障害史研究に大きな意味をもつものと感じます。

当事者性という観点でいえば、本号の執筆者は、自身が障害者、障害施設に関わりある者、家族が障害者、そのような立場にある方が占めます。それは一見すると障害史の研究には望ましいことにみえますが、それは表面的なことのようには思えます。当事者性のあるなしにかかわらず、注目してもらうことがより大事であり、科研メンバーはそれぞれの分野から障害史研究の必要性を理解し、参加しています。かかる広がり、本誌を介し、さらに多様な人たちの共感を得ながら、確実になることを願います（の）。

障害史研究・第3号 2022年3月25日発行

編集 障害史研究会（代表者・高野信治）

発行 九州大学大学院比較社会文化研究院
〒819-0395 福岡市西区元岡744

印刷 城島印刷

The Journal of Disability History Studies (Shōgaishi Kenkyū) Vol.3
Published in March 2022

Edited by the Society for Disability History Studies (Shōgaishi Kenkyūkai)
Office: Faculty of Social and Cultural Studies, Kyushu University
744, Motoooka, Nishi-ku, Fukuoka, 819-0395, Japan
E-mail: takano@scs.kyushu-u.ac.jp